

苫小牧市MICE誘致推進方針策定調査業務 概要版

MICEとは

企業等の会議（Meeting）、企業等の行う報奨・研修旅行（Incentive Travel）、国際機関・団体、学会等が行う国際会議（Convention）、展示会・見本市、イベント（Exhibition/Event）の頭文字のことであり、多くの集客交流が見込まれるビジネスイベントなどの総称。

M Meeting	主に企業がその従業員やグループ企業やパートナー企業などを集めて行う企業会議、大会、研修会等の会合。 例：全社員総会、グループ企業の役員会議、セールス会議・研修製品発表会・説明会、投資家向け金融セミナー等	主な主催者 企業
I Incentive	主に企業がその従業員や代理店等の表彰や研修などの目的で実施する。旅行の形態が多く、報奨旅行や研修旅行とも呼ばれる。 例：営業成績優秀社員を集めた旅行、周年記念旅行、代理店報奨旅行、お得意様招待旅行等	
C Convention	国際機関、学会、協会、産業（業界）団体等の総会・学術集会や政府が主催する大規模な会議。 例：G7・G20サミット、国連防災世界会議、世界水フォーラム、日本医学会総会、国際眼科学会、全国保育士会研究大会等	学会・協会
E Exhibition /Event	国際見本市、展示会、博覧会といったエキシビジョンや、文化イベントなど大小さまざまなものを含む。 例：東京モーターショー、国際宝飾展、企業の展示即売会、東京国際映画祭、就職活動フェア等	業界団体 展示会社

MICEに期待される効果



苫小牧市の特性

S	<ul style="list-style-type: none"> 豊富な企業の立地 日本を代表する港湾 先進的施策と連携した取り組み（CCSやCNP、水素等） 山や湖沼をはじめとした豊かな自然 豊富なスポーツ関連施設 空港からの距離の近さ 	W
O	<ul style="list-style-type: none"> 公共施設の建て替え整備 港湾やまちづくりにおける先進的取り組みの推進 新たなまちづくり政策 民間企業等によるリゾート開発 新たな企業の進出（苫東等） 誘致条件におけるハードインフラのボーダー低下 	T

他都市に比べ誘致しやすいターゲット

産業政策としての先進的な取り組みや域内に企業立地が多いことを生かせるターゲット
2次交通などの公共交通インフラの利便性に依存しなくても誘致可能なターゲット
大学の有無や都市としての知名度に関係なく、都市自体にある魅力（テーマ性）が刺さるターゲット
スポーツ施設など苫小牧にあるフィールドを効果的に訴求できるターゲット

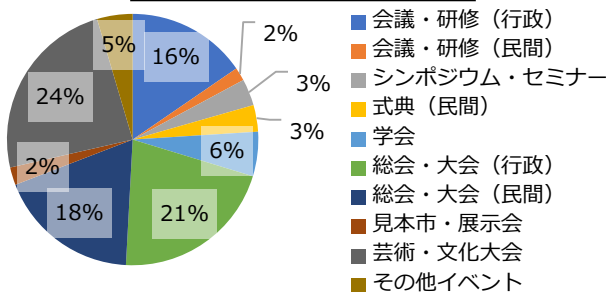
具体的なターゲットイメージ

企業系の会議や研修旅行（M）やインセンティブツアー（I）のようなグループでバス等で移動するもの
企業系の研修（M）など、スポーツ施設をフィールドとして活用できるもの
企業としての視察がセットになっている会議や研修
小規模でテーマ性の高いコンベンション

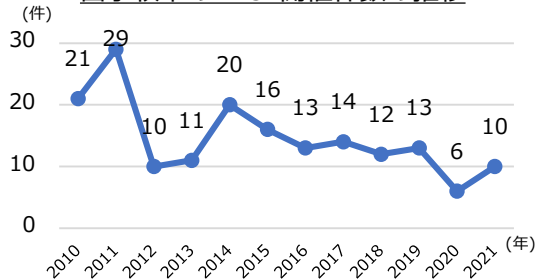
苫小牧市と道内他都市のMICE開催状況

苫小牧市でも既に多くのMICEが開催されているが、緩やかに減少している状況である。他都市が誘致の中心に据える、学会や国際会議はあまり多くなく、行政関連や民間（業界団体等）の総会・大会が中心となっている。また国際会議は道内では札幌市が中心となっているが、函館市や旭川市なども誘致に成功しているものがある。

苫小牧市で開催されているMICEの分類 (2010～21年11年間累計)

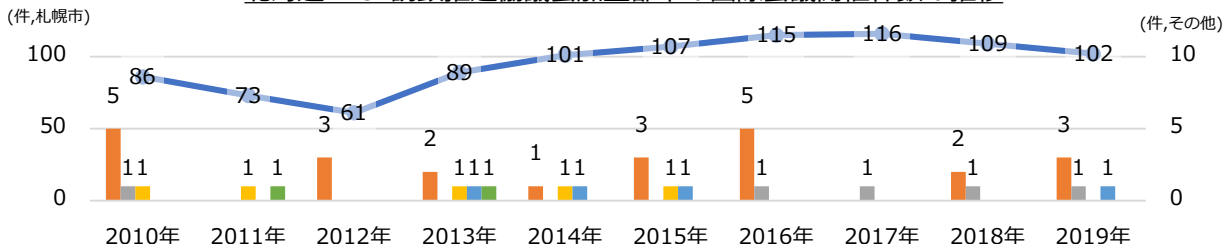


苫小牧市のMICE開催件数の推移



出所：苫小牧市国際・全国・全道大会調査より作成

北海道MICE誘致推進協議会加盟都市の国際会議開催件数の推移

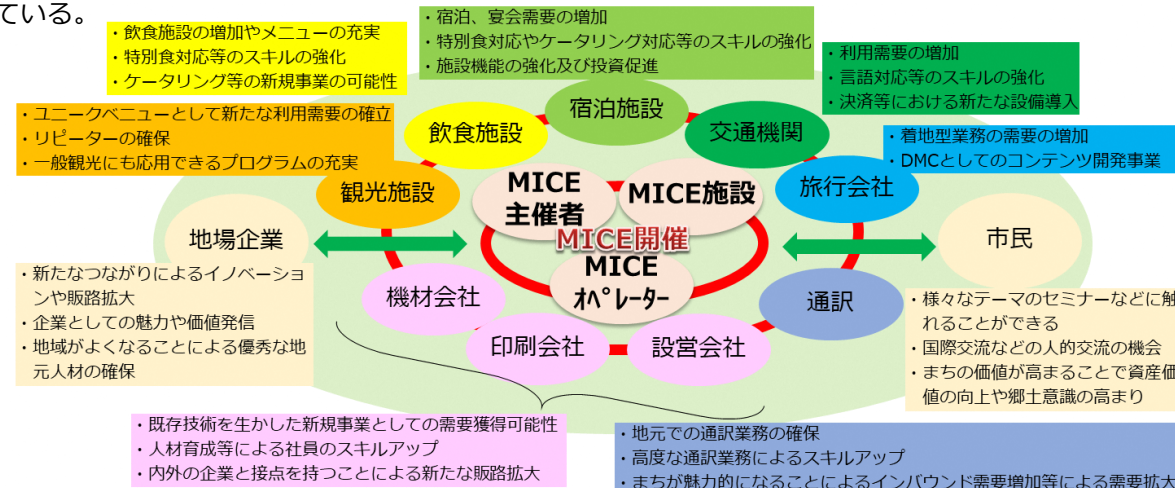


出所：JNTO国際会議統計より作成

MICE誘致の効果

苫小牧市の人口減少という課題に対し、生産年齢人口となる若年層が「住みたい」と思うまちに苫小牧市がなるために、MICEの効果を活用することができる。MICEには、都市内産業のイノベーションの促進や、魅力あるまちづくりを実現するための様々なレガシー効果がある。つまり、MICE誘致を推進し、それらの効果を最大限取り込むことで、「雇用の質」を向上させたり、若年層にとって魅力あるまちを実現するための一つのエンジンになる可能性がある。

また市内のステークホルダーへは、直接的な経済効果以外にも様々な効果を生み出すことができるのも、MICEの特徴であり、MICEをきっかけとして、様々な飛躍の機会を創出することができるのも、MICEの一つの特徴となっている。



① 誘致ツールの作成

MICE誘致用プロモーション動画の作成

MICEに特化したプロモーション動画を作成する。会場となる会議施設やホテル等はもちろんのこと、ユニークベニューなどの「**苫小牧らしさ**」を織り込むことが重要になる。可能であれば、「苫小牧らしさ」の目玉として、地元企業と協力し工場見学などの産業コンテンツも盛り込みたい。また**実際に参加者がいるシーンでの撮影**ができると、主催者としては開催をよりイメージしやすくなる。

MICE誘致用パンフレットの作成

MICE主催者の視点でパンフレットを構成する。MICE主催者は**会場の規模（部屋ごとの広さ・収容人数や部屋数など）が最も気になる点**になる。それらを簡潔にわかりやすく示すことが最初のポイントとなる。その上で全体の構成として「**なぜ苫小牧で開催するのか**」という視点で、**苫小牧市が提供できる「ストーリー」**を示すことが重要になる。例えば、多くの企業が立地し産業的魅力が充実していたり、CCS（CCUS）などの先進的な実証事業を行っていたり、世界有数の港湾を有していることなど、一見MICEや観光（都市の魅力）と関係なさそうに思えることでも、他都市にはない点であれば、それが魅力となるのがMICEである。それらをMICE開催を有機的に絡ませることができるといったことをアピールすることで、インプレッションの高いMICE誘致パンフレットを作成することができる。



② モデル事業の実施

エキスカージョン等のアフターMICEとして魅力的なコンテンツの実証の実施

どのようなコンテンツがMICE参加者に受け入れられるかは、実際に試してみるのが最も効果的な方法である。苫小牧市の**コンテンツを実際のMICE参加者に体験してもらい、アンケートなどによって生の声を収集**し、苫小牧の現状を把握することが、今後どのような形でMICE誘致を推進していくかにあたっても、また観光的魅力を増進していくにあたっても、重要な要素となる。MICEの開催が予定されている場合は、積極的にその機会を活用できれば、参加者が何を求めているのかを直接知ることによって貴重な機会となる。

③ コンベンション支援の実施（トライアル）

コンベンション開催時に地域の魅力を生かしたコンテンツを提供

コンベンションの開催にあたっては、何もしなければ参加者は会場内に留まり、苫小牧市内を回遊したり、苫小牧の魅力に触れる機会というのは限られてしまうケースが多い。主催者と協力できる関係性にあるコンベンションが開催される機会があるのであれば、積極的に協力し、**苫小牧の魅力をどのように差し込むかを、実際の開催で検証**していく貴重な機会となる。

地元の市場と協力して会場内外でイベントを実施したり、**ユニークベニューでのパーティーを提案**するなど、参加者が自然な流れで苫小牧の魅力に触れる機会をつくるのが、大きなポイントとなる。

苫小牧の場合、助成金などのお金の支援ではどうしても財政規模等の観点から、他都市との競争には限界があることを考えると、**主催者と協力しながら、開催地に行きたいと思う仕掛けを積極的に作っていく**ことで、金銭面以上の支援になる可能性がある。



④ 展示会の創出と育成

市内の事業者と連携した展示会の立ち上げと育成

苫小牧市は産業が盛んで、多くの企業が立地し、大企業の工場なども多く立地している。一見それらの企業に目が行きがちであるが、大企業が立地している場合、それらを支える**サプライチェーンが産業として必ず地域に根づいている**。それらの中小企業などは、近年新たな販路の開拓を積極的に行いたいと考えており、それらをサポートする手段が展示会である。特に苫小牧の場合、**市内にも多くのバイヤーとなる大企業が立地していることから、中小企業と大企業のマッチングも含めて、市内で展示会を開催することで、新たな販路になったり、イノベーションが促進される可能性が高い**。

しかし中小企業を中心とした場合、展示会を実施するのは、金銭的な面やマンパワーの面から困難な部分も多く、自治体のサポートが重要となる。**一定程度の金銭的な支援やマンパワーのサポートができればベスト**であるが、それ以外にも会場の使用がスムーズにできるように便宜を図るなど、**主催者側でかかる「手間」を行政のサポートで軽減**だけでも、かなり主催者の負担感を減らすことができる。また市民への周知など広報面でも行政のサポートは大きな力となる。地域と一体となって展示会をつくり、それを**継続的に支援し育成していくことで、地域の産業強化につながるとともに、ゆくゆくは外から人を呼べるイベントへ成長**させることで、関係人口の増加など、苫小牧市にとっても、大きなメリットを得ることができるようになる。

